

# 第2回岩手県総合計画審議会 若者・女性部会

日時 令和8年5月15日（金）10:00～12:00  
（オンライン開催）

## 次 第

### 1 開会

### 2 議事

- (1) 部会長及び副部会長の互選について
- (2) 意見交換（テーマ：一人ひとりの希望の実現について）

### 3 その他

### 4 閉会

若者・女性部会委員

(敬称略・五十音順)

(R8. 4. 1～)

氏名	所属等	備考
牛崎 志緒	ジョブカフェいわて	
西條 匡杜	地域志向型インターンシップネットワーク in いわて	欠席
櫻井 陽	一般社団法人いわて地域おこし協力隊ネットワーク	
佐藤 柊平	一般社団法人いわて圏	
藤 瑠杏	岩手わかすフェス実行委員会	欠席
山影 峻矢	manorda いわて株式会社	
山屋 理恵	岩手県男女共同参画センター	
吉田 知世	岩手わかすフェス実行委員会	

# 若者・女性部会 及び審議等の進め方について

# 1 若者・女性部会について

## ■ 設置の目的

若者や女性の視点から本県の現状や課題、今後の取組の基本的な方向性等について御議論をいただき、得られた御意見などを次期アクションプラン、地方版総合戦略等の策定及びその推進に生かしていくこと。

## ■ 構成

別紙名簿のとおり。

## ■ 今後の予定

	議題・テーマ（方針）	開催時期
第1回（終了）	・ 地方創生10年の成果と課題	令和7年12月22日
<b>第2回（今回）</b>	<b>・ 一人ひとりの希望の実現</b>	<b>令和8年5月15日</b>
第3回	・ 希望が実現できる社会	令和8年5月27日
第4回	・ まとめ	令和8年6月中旬

※ 部会は公開で開催する。また、各回の議事要旨等も公表する。

## 2 審議等の進め方について

### ■ 議事(1) 部会長・副部会長の互選について

- ・ 「若者・女性部会運営要領」第4条第1項及び第2項の規定に基づき、部会長及び副部会長を選出していただきます。

### ■ 議事(2) 意見交換（テーマ：一人ひとりの希望の実現について）

- ・ 第1回若者・女性部会の議論を踏まえた今後の議論の論点等について、事務局から説明します。その後、委員の皆様からテーマに沿った御意見をいただきます。

### ■ その他

- ・ その他、御意見などがありましたら御発言願います。

## 若者・女性部会運営要領

**（設置）**

第1条 岩手県附属機関条例（令和5年岩手県条例第4号）第7条第1項の規定に基づき、岩手県総合計画審議会に若者・女性部会（以下「部会」という。）を置く。

**（所掌）**

第2条 部会の所掌事項は、次のとおりとする。

- （1）若者及び女性から、より一層選ばれる岩手を実現するための基本的な方向性等の検討に関すること。
- （2）その他「いわて県民計画（2019～2028）」の推進に当たって必要な事項に関すること。

**（組織）**

第3条 部会は、委員8名以内で組織し、岩手県総合計画審議会の委員及び専門委員をもって構成する。

- 2 部会の委員の任期は、2年以内とする。ただし、欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

**（部会長及び副部会長）**

第4条 部会に、部会長及び副部会長を各1名置く。

- 2 部会長及び副部会長は、委員の互選によって定める。
- 3 部会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

4 副部会長は部会長を補佐し、部会長に事故があるとき又は部会長が欠けたときは、その職務を代理する。

**(オブザーバー)**

第5条 部会にオブザーバーを置くことができる。

2 オブザーバーは、知事が任命する。

3 オブザーバーは、必要に応じて会議に出席し、意見を述べることができる。

**(会議)**

第6条 部会は、知事が招集する。

2 部会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 部会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

**(意見の聴取)**

第7条 部会は、必要に応じて専門的知見を有する者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

**(庶務)**

第8条 部会の庶務は、政策企画部政策企画課において処理する。

**(補則)**

第9条 この要領に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会長が定める。

**附 則**

この要領は、令和7年12月1日から施行する。

# 【第2回】意見交換のテーマ

一人ひとりの  
希望の実現について

# 目次

1	前回の振り返り	10
2	今後の議論において核となる論点等	14
3	県が認識する現状・課題と取組例	16

# 1 前回の振り返り（第1回の意見を整理）

## 幸福

青と赤の下線は、「今後の議論において核となる観点」に整理した共通事項です。

- ・ 幸福をキーワードとした総合計画の推進は、岩手独自の考えで良いと思う。
- ・ 若者が岩手で様々な活動を行っているということに希望と幸福感を持つことができた。こういう人や取組が増えることが、岩手の持続可能性に繋がっていくと思う。

## 仕事関係

- ・ U・Iターンの減少が、地域企業の人手不足、後継者不足という課題につながってきていると感じている。
- ・ 新卒採用で県外から岩手にU・Iターンする人は、周りに少ない。もっとキャリア採用を重視した方が良いのでは。
- ・ キャリアの方は、知識やスキルを身に付け、ステップアップをして岩手に戻ってくるが、県内企業にとっては、キャリアの方を受け入れる賃金・労働環境・働き方などの体制整備が難しいという話を聞く。
- ・ 新卒採用を予定している企業に対して採用状況を調査しているが、例年、8割弱ぐらいは予定数を確保できていない。企業の経営にも大きく影響を及ぼす。
- ・ フルリモートなら、県外居住でも県内企業に就職する働き方が成り立つのでは。
- ・ 自治体と事業者を結ぶ中間支援組織の収益体制が取りにくい構造となっている。
- ・ 課題の解決に向けては、企業だけで解決できる問題と産学官金連携で解決すべき問題があり、その住み分けを明確化すると、進みやすいと考えている。

## 家族・子育て関係

- 子育てには、**柔軟に働ける制度**が重要と思う。社会増の地域にはこうした企業が多いのでは。
- 岩手県の取組を聞いて**子育て環境が魅力的**と感じたが、**正直あまり知らなかった**。
- 県外に出ると、岩手県の情報に触れる機会が減り、情報を知らない。中学や高校などで**早い時期に岩手の政策を周知**した方が良いのではないか。そうすることで、**人生設計の選択肢に岩手県が上がってくるのではないか**。
- 子育てへの**男性の参画を後押しする仕組み**が必要ではないか。

## 移住・定住・関係人口関係

- 自分の周りを見ると、地方から首都圏に出た人は、**ほぼ全員が首都圏に残る**。次の10年は**関係人口の増加が重要**。企業・サークル・大学レベルの交流が長期的関係につながるのではないか。
- 人生の拠点を移す時期は、進学、就職、結婚・出産の3つ。進学と就職は「学びたい内容」「働きたい職種」でどこに行くか決まるが、**結婚・出産は、首都圏以外は各地域とも似た状況**であり、**施策次第でU・Iターンを取り込めるのではないか**。
- **20代・30代前半は県外で働くが、その人の希望するタイミングでU・Iターンをしやすい**など、**懐を広く捉えた方が岩手を選択しやすくなる**という感覚を強く持っている。

## 人口減少への向き合い方

- ・ 今後は、人口減少による諸課題に対処するよりも、**縮小する前提に立ち、縮小しながらも充実させていく**、相反することをどう両立させるかという**縮充のアプローチが重要**になると思う。
- ・ 担い手やプレーヤーが地域にいないと産業や地域社会は維持できない。**担い手の解釈も拡大**していけないかと思い法人を設立した。

## ジェンダーギャップ関係

- ・ 「**ジェンダーギャップの解消**」が、今後の**県の取組全体**にかかっている。**この視点があることが、岩手の強み**と思う。
- ・ 人口減少というと、子どもを生む臓器、性を持っている人に関わる話になる。それは**プレッシャー**でもあり、**自分の生き方や人権を真ん中に思ったときに、疑問符や「もやもや」**がある。
- ・ 今47、48歳以上の方は家庭科の授業が男女別で、「男性はこういうもの」「女性はこういう勉強をしましょう」と分かれて行われていた。この**世代間ギャップは大きく、今が時代の転換期、移行期で、重要な時期**に来ているのではないかと思う。
- ・ 従業員調査によると、**「アンコンシャス・バイアス」という言葉を知っていたのは約15%**であるが、身近で**差別的と感じた割合は約5割**。様々な取組がまだ行き届いていない。

## メッセージ性

- ・（少子化対策の柱立てについて）「有配偶率の向上」、「有配偶出生率の向上」という言葉を変えたり、違う表現にしてほしい。今は養子縁組まで含めた、いろいろな家族の形がある。**インクルージョン施策をしようとしている岩手県にそぐわないのではないか**と思う。
- ・ 岩手の子育て環境がすごく充実してきていると思うが、**表現でひっかかってしまったらもったいない**。
- ・ 子どもが減り、地域の担い手が減るのは大きな課題かもしれないが、**若者世代への押し付け**のようなところもあると思うので、**このギャップ感を解消できたらいい**と思う。

## 岩手に戻らない・就職しない理由

- ・ 進学時は、学びたい分野の学部が県内に無かったため、上京した。就職時は、全国放送の番組制作がやりたくて東京の制作会社に入った。**自分の人生なので、まず自分が働きたいことをやろうと**。
- ・ 岩手が好きで、自分が生まれ育ったところで子育てするのが一番イメージを持ちやすいが、**戻るかどうかは、仕事、子育て環境、パートナー次第**。
- ・ 就職先はフルリモートなので岩手でも働けるが、仕事の空き時間に行く副業の**選択肢が東京の方が多**い。働ける時は東京で働き、落ち着いたたら岩手に戻ればと思っている。

## 2-1 今後の議論において核となる論点

- **第2回以降の議論の土台**とするため、いただいた御意見に**共通する事項**を次のとおり整理し、**今後の議論**で核となる**論点**をまとめました。 ※第111回総計審で御説明

### 施策の方向性に関する観点

- 希望の後押し**……………学び、仕事、働き方、副業、結婚、出産、子育て
- つながりの拡大**……………関係人口、県外での岩手とのつながり
- 変化に適応するアプローチ**…社会構造の変化（縮小と充実の両立、担い手不足）  
意識・行動の変化（多様性、U・Iターン減少、ジェンダー世代間ギャップ）

▶ 第2回以降の  
メインテーマ  
として議論を  
深める

### 施策の推進に必要な観点

- 情報との接点**……………早い段階で岩手を知ってもらう、人生設計の選択肢、県外で岩手を感じる機会
- メッセージ性**……………伝わり方、包摂性

▶ 主に施策立案  
時に重視

### 【参考】第111回総計審で出された意見

- 人材確保が県内企業にとっても重要な課題。待遇や働き方の改善が人材確保につながる。
- 部会の意見は、総計審の意見とも共通するところがある。
- 部会をアピールし、**女性が生き生きと暮らせる岩手県**であるということを、医療従事者を目指す**若者に認識していただ**  
**けるような施策を期待**したい。
- **リアルな声が聞け、とてもよかった**。次回以降の議題に「希望の後押し」があるが、**未来に希望を持てるような**、岩手  
県の教育になって欲しい。

若者・女性部会

社会経済の状況  
(今後も中長期的に人口減少は継続)

個人の意識・行動が変容      人口減少前提の施策を検討する必要性

施策の方向性に関する観点  
希望の後押し  
つながりの拡大  
変化に適応するアプローチ

第1回(12月)済  
・前提条件設定

一人ひとりの希望の実現 (重要視点: 関係人口・社会経済の変化(縮充))  
第2回…個人に着目 → 第3回…社会に着目 (個人の希望を叶えるための社会の在り方)

第2~3回(5月)  
・県が認識する現状・課題等を踏まえた議論

若者・女性の意見を尊重した新たな視点での地方創生を提案

第4回(6月)  
・まとめ

次期戦略の骨子等に反映

### 3 県が認識する現状・課題と取組例

#### 【家族・子育て】

#### 現状・課題

- ・ **合計特殊出生率の低下**が続く中、結婚・家庭・子育てに希望を持ち、安心して子どもを産み育てられる環境づくりに向け、**結婚支援**と**妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援**が必要。
- ・ **結婚したいと願う県民の希望**をかなえるため、“いきいき岩手”結婚サポートセンター「i-サポ」の**新規会員を確保**しつつ**年齢構成**や**男女比のギャップ**を解消しながら、**マッチング支援**の取組が必要。
- ・ **不妊に悩む夫婦が働きながら不妊治療を受けやすい環境**を整備するため、**経済的負担の軽減**を図るほか、不妊に係る**相談体制の強化**を推進するとともに、不妊や不妊治療に対する**理解の促進**が必要。
- ・ 価値観やライフスタイル多様化の中で、**子ども・若者が主体的に将来を選択**できるよう、**将来について考える機会**をつくとともに、ライフステージに応じた**ライフデザイン構築**への**切れ目ない支援**が必要。

#### 取組例

【i-サポ会員数】(令和7年8月末)

**933人** <前年同月比**93.2%**>

【婚活スキルアップセミナー】

自信を持って異性とコミュニケーションができるよう、外部講師によるオンライン講座、出会いイベントを開催。

第1回【婚活力】9/12

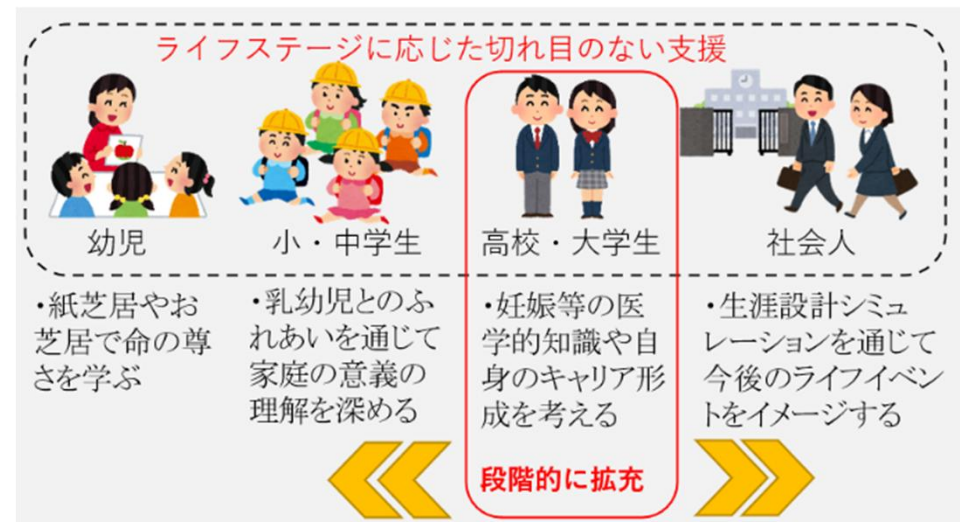
第2回【身だしなみ】9/19

第3回【コミュニケーション】10/3、10

第4回【出会いイベント】11/8



結婚サポートセンター「i-サポ」



ライフデザインの推進

- ・ 少子化、東京一極集中、人手不足、AI進展など多様化する地域課題に対応するため、**産学官が一体となった高等教育機関と関係機関の連携**が必要。
- ・ 少子化や学校行事の精選により**地域と関わる機会が減少**し、「自分の住む地域が好きだと思っている児童生徒の割合」は伸び悩んだため、**郷土の誇りや愛着の醸成**に向け、家庭・地域と連携した取組が必要。
- ・ 県内大学等卒業者の**県内就職率は伸び悩んでおり**、地域社会に貢献する**意欲ある人材**が岩手で活躍し**地元定着**につながるよう、**進学・就職・人材育成**の一体的な促進が必要。
- ・ **高校生の多くが県内で働きたい企業を「今は分からない」としており**、県内企業や産業への理解を早期から深め、**自ら将来のライフデザインを考えられるキャリア教育**の充実が必要。

取組例



いわて高等教育地域連携プラットフォーム



地域探求発表会  
(県立大槌高校)



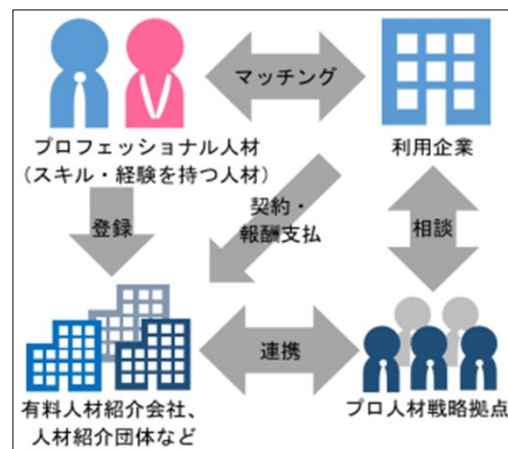
いわて就職  
マッチングフェア

- ・柔軟で多様な働き方の広がりを捉え、県経済成長の原動力となる**経営人材**や**若者の育成を進める一方、開業率は全国平均を下回っているため、新たな経営人材の育成と起業者の増加を図る。**
- ・成長が見込まれる**海外市場で意欲ある事業者の展開を進めるため、貿易実務や商談スキルを学ぶ機会と、それを生かす商談機会の確保**など多様なニーズへの対応が必要。
- ・東京一極集中の継続で**UIターン就職者数**は計画どおり進まず、人口減少で**地域の担い手不足**も進むため、**若者や女性を中心にUIターンを含む人材確保の取組強化**が必要。
- ・所定内**労働時間の長さ**や**賃金水準の低さ**に加え、**若者や女性等に選ばれる職場づくり**が課題であるため、**生産性向上、働きやすさ・働きがい向上、偏見やジェンダー格差の解消**が必要。

## 取組例



いわてスタートアップ推進プラットフォーム  
ポータルサイト「スタートアップいわて」



県外の専門人材との  
マッチング支援



長時間労働の削減・  
女性活躍などを表彰